

救急支援システム実証実験について

1 救急支援システムについて

全国的に救急出動件数が増加しており、恵庭市においても人口の増加や市民の高齢化など様々な要因により救急出動が増えています。今後、更に救急出動件数が増えると傷病者を受入できる医療機関が少なくなり、救急隊が現場に滞在する時間が増加します。

これらの課題解消のため、傷病者の受入要請をDX化によるシステムの活用により同時に複数又は個別の医療機関へ効率的にデータを送信することで、これまでの電話による1医療機関ごとに情報を伝えていた時間に比べ、**傷病者を医療機関へ収容する所要時間の短縮効果が見込めます**。対応時間の短縮により傷病者の予後向上と救急隊員の労務負担の軽減に繋がり、**救急体制の維持・向上・効率化**などを図るものです。

2 実証実験の内容

(1) レベル1：消防のみ図上訓練（令和5年9月実施）

○運用に必要な端末等を活用したシミュレーションを消防のみで実施

(2) レベル2：消防、市内3救急告示医療機関との図上訓練（令和5年10月実施）

○運用に必要な端末等を活用し、消防と医療機関が連携したシミュレーションを実施

(3) レベル5：実事案での試行運用（令和5年12月1日～令和6年1月31日までを予定）

○連携シミュレーションを経て**実際の救急現場**で市内3救急告示医療機関へ収容依頼する。

※市内3救急告示医療機関・・・恵み野病院・恵庭第一病院・えにわ病院

3 近隣市との連携による実施

本システムの運用は、広域的に医療機関と消防が連携することが最も有効であるため、他の事業等で連携・協力関係にある、千歳市（4医療機関）及び北広島市（1医療機関）と合同での実証実験を行います。

4 実証実験のスケジュール

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実証実験		Level 1, 2		課題調整	Level 5			検証

5 今後のシステム導入見込

今後の導入は未定ですが、同様の他社製システムが存在するため、比較検討のため、改めて実証実験等を行う可能性があり、本実証の検証を含め、連携いただく医療機関のご意見を伺いながら検討を進めてまいります。